

ナノチューブの電子状態と振動構造
東北大理学研究科物理学専攻、CREST JST
齋藤 理一郎

カーボンナノチューブが発見されてから 12 年、ナノチューブに関する物性測定や応用研究の最近の進歩には著しいものがあります。斬新なアイデアが提案され、華麗に実現させてみせるなど、ナノチューブ研究者自身が驚かされる毎日といえます。また世界各国がナノテクノロジー戦略をかかげ、新しい研究に挑戦しています。

本講演では、まずナノチューブの基礎的な物性と最近の展開について紹介します。次に我々の共同研究グループが積極的に進めているナノチューブの一本の共鳴ラマン分光についてお話致します。別のところで発表した解説記事^{*1}を添付します。ゼミの前に一読いただければ、講義の理解につながるとと思います。

^{*1}出典：炭素材料学会 205 号/2002 年 ナノカーボンの共鳴ラマン分光（齋藤理一郎）

〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉 東北大理物理
齋藤 理一郎 tel: 022-217-7754 fax: 022-217-6447
rsaito@phys.tohoku.ac.jp
<http://www.flex.phys.tohoku.ac.jp>